

# 「地域防災力の向上を目指して —共助のあり方、避難所の運営を中心に—」

危機管理教育研究所

危機管理アドバイザー 国崎 信江

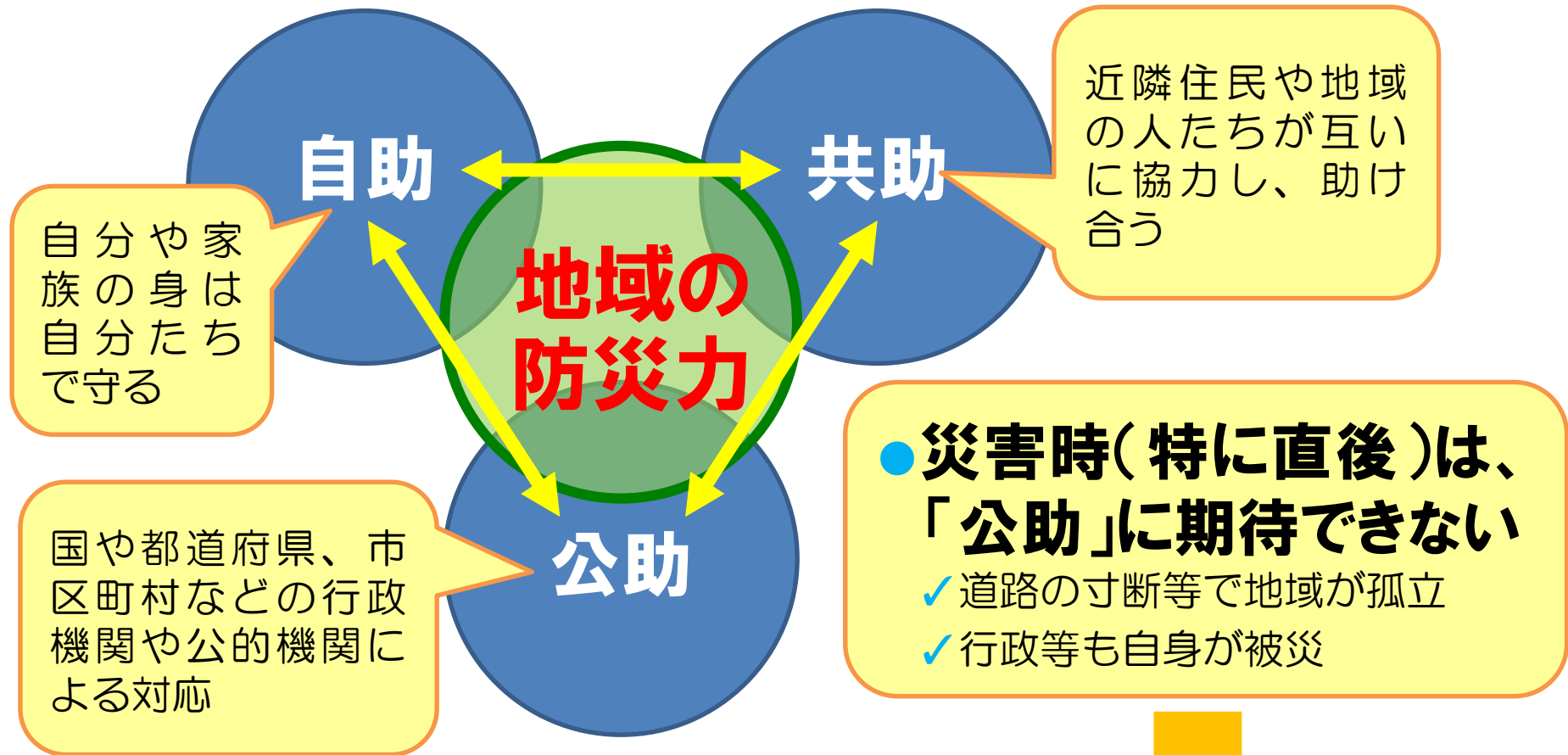
<http://www.kunizakinobue.com/>

# 非構造部材の被害により施設が機能を失う



総合体育館：熊本地震\_2016年4月17日  
熊本YMCA様提供  
〔株〕危機管理教育研究所

# 自助・共助の重要性を知る



● (特に直後は)共助による災害対策が重要

出典:内閣府防災担当資料

# 自主防災組織の役割

- 自主防災活動は、法律にも位置付けられた地域における共助の基本的な活動
- 自主防災組織には要支援者名簿の作成、避難誘導、避難所運営、備蓄、訓練等の担い手として期待が高いが高齢化を含め限界もある
- 地域には多様な自発的な防災の担い手が存在。幅広い連携をもって地域の防災力向上に努める

# 期待される災害対応事例：住民情報の情報収集

“益城では発災後2週間経過しても被災者の全容が把握できなかった”

初動期にもっとも重要かつ困難なのが

## “住民の被害と安否情報”

災害直後に行政は1軒1軒回れない。孤立地域も把握できない

住民の情報は地区でまとめて行政に連絡する体制が求められる

行政だけでなくマスメディアもその情報が最も気になる。

- ① 住民は自宅の被害状況と避難の意向を自分から班長に伝える（避難所・在宅避難・車中泊・疎開等）
- ② 消防団は地域の被害状況（道路閉塞や液状化等）をとりまとめ
- ③ 会長は班長と消防団の情報をとりまとめて行政に報告

# 女性でも救助できる資材の充実を

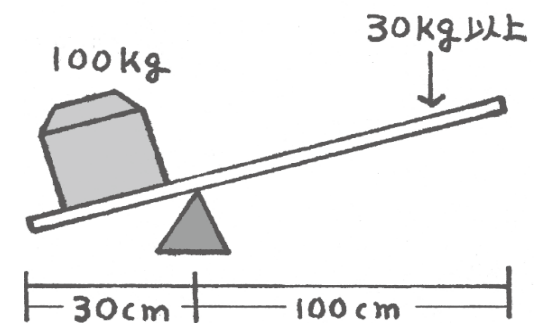
1

**とじこめ**…ボール、ハンマー、テコ、斧で 扉をこじ開ける、破壊する

**下敷き**…ジャッキで持ち上げる、のこぎりで切断して軽くして救助する



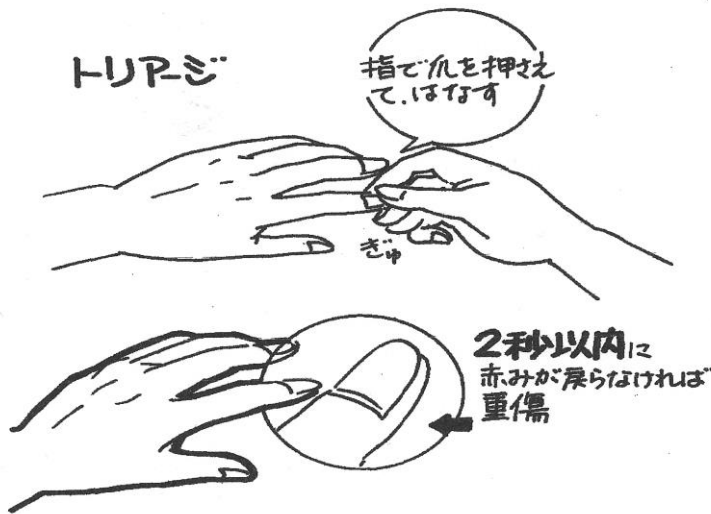
てこの原理を利用した救助方法の概念図



# 震災に対応する救助の知識を

## ●救助方法

- ①活動時の安全装備をしてから作業する。  
ヘルメット、安全ゴーグル、作業着、手袋(革製または滑り止め付きのもの)  
安全靴
- ②作業する空間を確保するため、周りにある什器類を移動させる。  
不安定な物は取り除く。
- ③ガラスを破壊するときには、ガムテープ等を貼って飛散防止対策をする。
- ④出血している場合、感染防止のため直接接触らないように手袋をして救助す
- ⑤2時間以上上下敷きになっている場合には要救助者に水を補給させる。
- ⑥体力的な問題や、悲惨な状況を見て辛いときは無理をせず、応援を頼む。



クラッシュ症候群  
エコノミッククラス症候群  
脱水症状を  
見逃さない！！

## 「避難所の自主運営の支援」

行政依存でない住民主体の避難所運営を！





避難所では住民の自主運営および女性の主体的な参画が重要

避難所運営を円滑にするには**男性と女性のリーダーを配置し女性の主体的な参画を目指す**



# 被災地における食事を考える

## 【質】必要エネルギーの不足、栄養バランスの偏り

**備蓄食材・救援物資を主にした食事は一日に必要な栄養量を確保しにくい。**

タンパク質やビタミン類が不足がち。ビタミン類含有の栄養補助食品が支援された事例も。

**配給の弁当は乳幼児・高齢者・慢性疾患患者等は食べられないこともあった**

運動不足やストレス、栄養バランスの偏りのある食事で、高ナトリウム、低カリウム、食物繊維不足により高血圧有症率の高まりや血圧レベルが上昇して病気を発症したり、持病が悪化するケースもある。病院では粥の備蓄が多い

【科学技術動向研究2012年3.4月号/非常食から被災生活を支える災害食への資料より】

# 避難所では住民による自炊を推進しましょう



# 初動対応を確実にするファーストミッションボックスの導入を！

